

令和4年度 通年・広域観光推進特別委員会 行政視察報告書

報告者：委員長 安田佳代
副委員長 上野公悦

1 視察日

令和5年2月2日（木）～3日（金）

2 参加委員

安田佳世（委員長）、上野公悦（副委員長）、
高山ゆう子、丸山章、滝沢一成、杉田勝典、飯塚義隆、武藤正信

3 視察先

滋賀県長浜市、株式会社NOTE（兵庫県丹波篠山市）

4 視察の事項

月日	視察先	調査事項
2月2日 （木）	滋賀県長浜市	黒壁スクエアにおける伝統的建造物を生かした観光振興施策について
2月3日 （金）	株式会社NOTE （兵庫県丹波篠山市）	歴史的建造物を活用した観光のまちづくりへの取組について

5 説明を受けた内容など

(1) 滋賀県長浜市

長浜市は、豊臣秀吉が開いた宿場町で、琵琶湖水運物流拠点と京阪神・東海・北陸の交通の要衝として栄えた町である。2006年2月13日に長浜市・浅井町・びわ町が合併し、その後2010年に虎姫町・湖北町・高月町・木之本町・余呉町・西浅井町と合併、令和5年1月現在の人口は約11万5千人である。また、長浜独自の誇るべきまつり、町衆文化・曳山まつりが平成28年12月にユネスコ世界無形文化遺産に登録されたことでも知られている。

1979年秋に中心市街地に立地する2つの大型店舗から郊外への出店申請が出されるなどして町の核がなくなり、伝統的な人口集積地域が衰退し始めた。この危機ともいえる状況の中、1983年の市制40周年に市民から寄せられた寄付金4億3千万円で3層5階の長浜城を復元、400年ぶりの再建を祝って「長浜出世まつり」として各種イベントが行われた。これが端緒となってその後全国から注目されるまちづくりが進められていくことになった。

また、1984年に町のシンボルだった「黒壁銀行」の保存に向けて地元の有志が立ち上がり、1987年に青年会議所OBの笹原司朗氏が旗振り役となって、仲間とともにまちづくりに奔走し、地元企業と行政の連携で第三セクターのまちづくり会社、株式会社黒壁を設立した。ちょうどこのころ、博物館都市構想として、「市民が育んできた文化や伝統的なまちの雰囲気や現代の生活の中に生かして、まち全体を博物館のように魅力あるコトやモノで覆い、個性ある美しいまちとして住んでいこう」という基本構想が策定され、この構想のもと、まちづくり会社など民間活力主導により行政も一体となったまちづくりが進められていくことになった。

来街者の増加を見込んだコンテンツとして、ガラス工芸の導入を決め、1988年には「ガラス」をテーマにした事業展開をスタート、翌年7月にはガラス工房とレストランを併設させた「黒壁スクエア」が完成した。その後も旧家・町家などを買い取り、事業を拡大していき、市が1億円、民間企業40社で2億円を出資して黒壁の蔵造りのユニークさとガラス工芸の楽しさを融合させたことにより、予想以上の賑わいが生まれ、関連店舗も多数稼動するようになった。ここに官民連携と協働体制による「黒壁」の成功を強く感じる。

(2) 株式会社NOTE（兵庫県丹波篠山市）

丹波篠山市は、住みよさランキングで総合651位、人口は40,845人で、兵庫県の中東部に位置し、篠山盆地と盆地を取り囲む400～800m級の山地で構成されているまちである。江戸時代には城下町として栄え、現在でも、重要伝統的建造物群保存地区に指定された町並みがあり、祭礼、農村景観、丹波焼などの伝統産業が残っている。しかし、人口減少が進み、地域に根付く風習や工芸、コミュニティ、食文化などを含め地域全体の存続が危ぶまれている。

まちづくり会社の株式会社NOTEでは、古民家などを購入、または借用し改修するなどして保存活用し、店舗や滞在型宿泊施設として再生している。城下町全体をホテルに見立て、まちの中に点在するように客室を配置しながら建物の歴史を壊さないように当時の姿をそのまま残す、そのことによって古いと思われた文化や生活に懐かしさと安らぎ、懐かしくて新しい日本の暮らしを作り出していくことを目指している。

株式会社NOTEが手掛ける事業は、一般的には「まちづくり」だが、中心市街地に新しい近代的な建物を建設するというようなまちづくりとは異なる。小さな町、地域で脈々と営んできた昔ながらの暮らし・文化・生業に「古くて新しい価値」を見つけ出しながら、次世代につなげていくための仕組みづくりをその地域やそこに暮らす人々と協力して作り上げていく・・・

人口減少・過疎化などで、そのままでは廃れ行くまちを再生していくまちづくり事業である。

視察の最後に丸山集落を訪れた。丸山集落は、篠山市の中央部、そのやや北部に位置する 260 年以上の歴史を持つ谷あいの小さな集落である。12 戸のうち 7 戸が空き家であった集落だが、古民家をリノベーションして 2009 年 10 月に宿泊事業「古民家の宿 集落丸山」をスタートさせた。まるごと一棟貸しする古民家、フランス料理店「ひわの蔵」、また「ろあん松田」というミシュランに載るような蕎麦懐石の店があり、この 2 店には集落の外からも多くの客が集まるという。景色、宿、食の 3 拍子がそろった宿泊スタイルが人気を博しているとのことである。

株式会社NOTEの取組により、丸山集落では人口が増え、20 年ぶりに集落に小学生が加わり、耕作放棄地はすべて解消、里山の再生も始まって、2015 年には日本遺産に認定されたとのことである。

歴史的建築物を守る、暮らしや文化を大切にする、原風景を大切にしながら、そこに暮らす人々と地域の営みを百年先につなぐための古くて新しい地域づくり・・・これこそが株式会社NOTEの目指すまちづくりビジョンで、丸山集落の取組は、株式会社NOTEの原点でもあるという。

6 所 感

当市では、「通年観光」を目指した取組を開始する。今回、当委員会では 2 か所の観光におけるまちづくりを視察してきた。イベントだけに頼って通年観光は成功しない。長浜市や丹波篠山市のように人々が営々と築いてきた地域や歴史・文化、原風景を大切にし、さらに新しい価値を付して未来につなげていく。そんな取組こそが大事だと感じた。当市にも、雁木や古い町並み、何よりも中山間地域の原風景の中での人々の営み、長い時の流れの中で築き上げられてきた文化がある。両市のように素地を生かしたまちづくりを参考にしながら、古いものの価値を見出し、素地を仕立て直し、新しい価値を加えて磨いて輝かせる、志のあるものが知恵と力、資金も出し合い、官民が協働していくことが極めて大事だと実感できた。そのような取組が当市には大いに求められている。株式会社NOTEの力も大いにお借りしたいと考える。